

矢野経済研究所

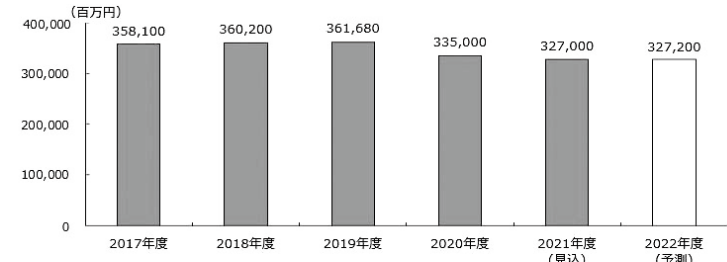
エステ市場に関する調査を実施
2021年度の市場規模は
前年度比2.4%減の3270億円

矢野経済研究所は、2021年10月12月にかけて、国内エステティックサロン市場を調査し、都道府県別や施術別の動向、参入企業動向、将来展望を明らかにした。

2021年度のエステティックサロン市場規模は事業者売上高ベースで前年度比2.4%減の3270億円と予測している。

断続的に発出されたもの野は、Web販売拡大に

ティックサロン市場規模は事業者売上高ベースで前年度比2.4%減の3270億円と予測している。施術・物販市場別にみると、総市場の7割弱を占める施術市場（レデイス）が2181億円（前年度比3.6%減）、メンズエステ市場が93億円（同3.1%減）でマイナス推移となり、物販市場については996億円（同0.5%増）のプラス推移を見込む。コロナ禍2年目となる2021年度に入っては、東京をはじめとする都市部を中心に、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が



	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度 (見込)	2022年度 (予測)
市場規模	358,100	360,200	361,680	335,000	327,000	327,200
前年度比	100.3	100.6	100.4	92.6	97.6	100.1

注1. 事業者売上高ベース
注2. 2021年度は見込値、2022年度は予測値
注3. エステティックサロン市場には、国内の店舗型エステティックサロンで提供する施術（美顔、痩身・ボディ、脱毛、メンズエステ）と付帯する物品販売・その他サービスが含まれる。なお、セルフエステ、訪問エステ、理美容エステ、メディカルエステなどは対象外としている。
注4. 市場規模を過去に遡って再算出したため、過去の公表値とは一部異なる。

記者の窓

セブン&アイ・ホールディングスの百貨店事業からの撤退が現実となった。祖業のイトーヨーカ堂はバブル期に伊勢丹（当時）の株式を保有していた。その傍ら、ロビンソン百貨店を設立し、最盛期に4店を展開していたが、そごう・西武へ2店を移管し会社を清算した。その2店も閉鎖

小型・低価帯へシフト

Cの形態となっている。一方でRSCの核店として地方百貨店、西武、三越などを誘致したが、シナジーの発し、これが実質的な進んでいる。（F）

共同プロジェクトを開始

美容室でのビューティヘルスケアサービスの確立へ

花王はミルボンと美容室での新たなビューティヘルスケアサービスの確立に向け、共同プロジェクトを開始する。

花王

2022年より、皮脂RNAモニタリングを用いた美容室でのヘルスケア情報提供に関する検討を開始し、美容室専売のビューティヘルスケア商品の共同開発も開始する。さらに、美容室をハブとしたヘルスケア商品や各種サービス

を順次展開していく。高齢化が進行する日本では、コロナ禍により物理的・心理的な移動に対する制約があったことで、近隣消費の傾向がさ

らに加速している。美容室は、全国におよそ17万軒あるといわれ、多くの人々にとって身近な存在であり、定期的に通う場所でもあることから、国内の社会環境を踏まえると、美容はもろもろ人々の健康までをケアする新たなコミュニティとなり得る可能性が秘められている。

こうした中、美容室専業メーカーとして培って

花王 最先端皮膚断層画像の3D化によりCT-Skinを開発

花王は、肌を傷つけずに内部を可視化する技術の開発を行い、2021年1月には、JMOC T（Jones matrix optical coherence tomography）を用いて、わずか7秒で128枚の皮膚断層画像を取得し、肌内部を2次元画像で可視化することに成功していたが、今回、独自のアルゴリズムと三次元（3D）化技術をJMOC Tに応用し、肌を切り取ることなく、今までは、表皮に栄養を届ける毛細血管の血流が表皮

きたへアケア技術と美容室網を持つミルボンと、高度なヘルスケア技術を持つ花王は、両社の強みを重ね合わせることで、美容室における新たなビューティヘルスケアサービスの確立を目指す。共同プロジェクトでは、美容室が美を通じた人と街の新たなコミュニティ「ビューティプラットフォーム」となる未来を描き、ミルボン側では「皮脂RNAモニタリングを用いたヘルスケア情報提供の企画・販売」「美容室専売のビューティヘルスケア商品の開発・販売」「花王側では「皮脂RNAモニタリングを用いたヘルスケア情報提供の企画・販売」「美容室専売のビューティヘルスケア商品の開発・技術支援」を推進する。

直下でじわじわ高まるダイナミックな変化も見ることができ。

今後、肌内部の世界が手に取るようにわかるCT-Skinを用いて、個々の肌により合ったスキンケア提案や将来の肌状態予測などを行っていく。さらにそれだけでなく、皮膚科学研究や素材評価へも応用し、医薬部外品や化粧品開発の革新を目指していく。



CT-Skin